

一般社団法人あいあいネット

年間活動報告

2018年度(2018年7月～2019年6月)



一般社団法人あいあいネット

(いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク)

〒231-0003 横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター内

Tel 050-3754-5970 URL: <http://www.i-i-net.org/>

1. いりあい交流

<インドネシアでの活動>

2012年度から実施している、インドネシアの高校生を対象とした「聞き書き」研修を、NPO 共存の森ネットワークとの協働で実施しました。2018年度は、7月にゴロンタロ国立大学との連携により、ゴロンタロ州内の高校生 50 名を対象とした聞き書き研修と、ボゴールのコルニタ高校の生徒 30 名を対象とした聞き書き研修を 8 月に実施しました。また、9月 28 日に地震・津波・液状化の災害に見舞われた中スラウェシでは、高校生たちが 12 月に被災者の聞き書きを実施しました。

聞き書きを実施したこれらの生徒の中から、優秀な作品をまとめた計 10 名は、2019年 2 月にボゴール農業大学で実施したセミナーに招聘し、その成果と経験を報告しあいました。また 2019年 7 月に開催されたマカッサル国際作家フェスティバルで、「聞き書き」のセッションを企画し、聞き書き研修参加生徒の代表がその経験を報告しました。

<日本国内での活動>

滋賀県長浜市余呉町中河内集落の共有林において、火野山ひろば、滋賀県立大学、京都学園大学、地元協力者とともに焼畑を主軸とした取り組みを、2009年より継続しています。広く参加者を募りながら、2018年 7 月に林野の伐開、8 月に火入れを行い、11 月に収穫を行いました。また、地元住民から聞き取ったことがらを参考にしながら、焼畑休閑地における山菜利用を模索しました。

2. 西部バリ国立公園プロジェクト

2017年 4 月からインドネシア・バリ島西部の西部バリ国立公園の周辺地域を対象とした地球環境基金（独立行政法人環境再生保全機構）の助成が「カンムリシロムク翔び交う里」を目指すインドネシア・バリ島西部の地元住民・行政・企業の協働による、自然と経済の共生した地域づくり」プロジェクトとして始まりました。これは西部バリ国立公園とその周辺地域において、「カンムリシロムクの野生復帰」をテコにして、多様な関係者の協働による観光を通じた地域振興を目指すものです。2018年度には、公園を管轄する環境林業省自然資源生態系保全総局による「ロールモデル」策定の対象として「住民との協働によるカンムリシロムク村落ツーリズム振興」と「協働によるゴミ処理の進展」の 2 つが指定され、複数の村を横断したツーリズム振興に向けたワークショップや、関係者を巻き込んだツーリズム振興委員会の結成等が進みました。その結果、3 つの村（プリンビンサリ、ギリマヌク、スンプルクランポック）で住民と関係団体協働による村落パッケージツアーが開発され、観光客受け入れが始まっています。またクリーンアップ活動やゴミのリサイクルが、住民グループや行政を巻き込む形で 2 村で始まっています。一方、カンムリシロムクの保護や生息地保全に関しては、2018年度に 40 羽が放鳥され、野生化の生息数は 2018 年末には 191 羽になり、住民グループによるパトロール活動が開始され、植樹も 1 村で行われました。

さらに「自然と共生する地域づくり」先進事例との学びあいを目指して、2018年 12 月、バリ島内ギャナール県のウブド地区における村住民のイニシアティブによる観光振興やゴミ処理の事例を西バリ周辺 4 村のリーダー 6 名と公園職員 9 名とが訪問し、学びあう活動

を実施しました。一方、日本国内では 2019 年 3 月に今後の「国境を超えた学びあい」の主体となることが期待される新潟県佐渡市の市民グループリーダー（トキどき応援団）2 名が徳之島を訪問し、エコツーリズム振興や自然環境保全に取り組む徳之島の住民グループ（徳之島虹の会）と交流しました。そして 2019 年 4 月、西部バリ国立公園から幹部職員・現場職員 3 名とギリマヌク村の住民グループリーダー 1 名が来日し、徳之島を訪問してエコツーリズム振興と協働の進め方等について学びあいを行いました。

3. 地域に学ぶ研修事業

あいあいネットが受託する JICA 横浜の課題別研修「住民主体のコミュニティ開発」は 2019 年 2 月～3 月に実施され、7 か国 9 名の研修員が参加しました。前年度に引き続き、鹿児島県奄美群島の徳之島で 9 日間のフィールドワークを行いました。島では二つの集落を訪問して、地元の皆さまと交流しながらパートナーシップ構築や FALCON（ファシリテーター的な会話）の実践をさせていただきました。また NPO 法人徳之島虹の会による世界自然遺産登録に向けた活動について学ぶこともできました。さらにも横浜市内のフィールドワークでは千丸台地区社協を 2 日間訪問させていただき、その活動についてじっくりお話を聴くことができました。

2017 年度に引き続き、JICA 横浜の青年研修を受け入れました。今年度はミャンマーから 11 名の青年リーダー（国や地方の行政官）が来日し、9 月に 17 日間のスケジュールで住民と行政の協働をテーマにコースを実施しました。フィールドワークではこれまで何度もお世話になってきた山梨県上野原市西原地区を訪問し、住民主体の活動について学ぶことができました。また横浜市内では千丸台地区社協に加えてよこはま若者サポートステーションとよこはま西部ユースプラザを訪問しました。

前年度に実施する予定でしたが火山噴火により実施延期となった、帰国研修員へのフォローアップ研修（インドネシア・西部バリ国立公園をフィールド）は、2019 年 1 月～2 月に実施できました。過去の「住民主体のコミュニティ開発」研修参加者から 8 か国 8 名が参加し、インドネシア・西部バリ国立公園の職員（コミュニティ・ファシリテーター）たちとともに、現場で学びあいを行いました。

4. その他の活動と組織・広報

- 横浜 NGO ネットワーク（YNN）が JICA 横浜と実施する NGO 人材育成研修（つながり・まなびあい・ひろがる＝TMH 研修）に、当会から 3 名がファシリテーターとして企画・実施に協力しました。
- 前年に引き続き、「持続可能な開発のための教育」推進会議（ESD-J）に当会役員の壽賀一仁がシニアアドバイザーとして参加しました。
- 前年度に引き続き、横浜 NGO ネットワーク（YNN）に、当会役員の山田理恵が理事として参加しました。
- 明治大学ガバナンス研究科が実施するベトナムの高等教育機関への研修事業に協力しました。